

高齢者が考える「生きる力」を育てるための教育内容

The Aged Person's Opinion about the Important Educational Contents as a Zest for Living

田 中 敏 明

Toshiaki TANAKA

幼児教育講座

高 杉 洋 史

Hiroshi TAKASUGI

玄海ゆりの樹幼稚園

清 水 陽 子

Yoko SHIMIZU

西南女学院大学短期大学部

(平成26年9月30日受理)

現在の初等教育の中心的な課題のひとつである「生きる力」とはどのような力なのかについて考察する手がかりを得るため、人生を長く生きた65歳以上の高齢者を対象に、「生きるために必要な力」、「生きる力の中で子どものときから育てておくべきもの」について調査した。その結果、大人になってから生きていくために必要な力として、感謝の気持ちを持つ、責任感がある、人と協力できる、思いやりの気持ちがあるなど、人間関係に関する態度や心の強さに関する項目が上位を占め、理科、数学、社会、外国語などの教科や、絵を描く、歌を歌う、楽器を弾くなどの技術に関する必要性の認識は低かった。「生きる力の中で子どものときから育てておくべきもの」についてもほぼ同様の傾向が認められた。

キーワード：初等教育の内容、生きる力、高齢者の意識

教育界では、現在、「生きる力」の基礎を育てることが重要な教育課題のひとつになっている。

しかしながら、生きる力とはどういう力なのかという具体的な定義があいまいであり、とりあえずは、小学校学習指導要領の各教科や教科外活動、幼稚園教育要領に示されている5領域のねらいや内容が生きる力の基礎ということになる。しかしながら、これらのねらいや内容には、生きる力の基礎となる中核的内容と、育っておいたほうが望ましいという程度の内容、趣味に生かせる程度の内容など多様な内容が含まれていると考えられる。

現実には、小学校では国語、算数、理科、社会が主要教科として重視され、小学校6年生の教科ごとの年間時間配分は、総授業時数980時間の中で国語と算数が175時間、社会と理科が105時間、体育90時間、総合的な学習の時間が70時間、家庭55時間、音楽と図画工作が50時間、道徳、外国語活動と特別活動が35時間となっている。幼児教育の現場ではごっこ遊びや描画造形活動、音楽活動、身体表現活動が重視され、夏季休業中な

どに保育者が参加する研修の多くが実技的な研修となっている。これらの現実に重要視されている教科や活動を通して育つものは、生きる力の中核となる重要な能力や態度といえるのだろうか。

小学校や幼児教育の教育内容は教育の専門家の叡智を集めたものであり、それなりに信頼すべきものであろう。しかしながら、たとえば国の定める教育内容が長期間にわたって不変で絶対的なものというわけではない。教育の歴史の中で、教育の内容、方法ともに変遷を重ねてきている。戦後の教育内容だけを見ても、当初は学力が重視され、高度成長時代を経ていわゆるバブル経済が崩壊し平成に入るとゆとり教育が導入された。ゆとり教育も見直され、現在はゆとり教育導入前の状態に戻りつつある。

幼児教育の世界でも同様の傾向がある。ただし、平成元年に幼稚園教育要領の大幅な改訂が行われた後、この20年間は小学校学習指導要領の改訂にもかかわらず大きな改訂がなされていない。人の重要な資質のひとつと思われる「思いやり」は昭和31年に始めて制定された幼稚園教育要領に

はねらいや内容としての記載がなく、平成10年の第3回目の改訂版で初めて登場している。

重要な教育内容とは何かについては専門家の間でも意見が分かれるところである。

子どもは自分が受ける教育の内容を自分で選ぶことはできない。したがって、本当に必要な教育内容を選択して子どもの育ちを保障するのは大人の責任である。教育にかかわる人はもちろん、すべての大人が思考し、叡智を集めて確かな教育作りを進めていかなければならない。

生きるために必要な力とは何か、このことが一番わかっているのは人生を長く生きた高齢者ではないだろうか。とくに70歳以上の高齢者は、戦争、戦後の混乱期、高度成長期、バブル経済の崩壊そして現在と多様な社会的状況の中で子ども時代、青年期、成人期、老人期を過ごし、遊び、学び、働き、家庭生活を営み、子育てし、老後を過ごしている。人生のすべてを知り尽くしている人生経験者である。生きるために何が大切なのかが一番わかっている人々ということができる。生きた経験から生まれた高齢者の思いは、生きる力を育てるために必要な教育内容を考える上で貴重な示唆を与えてくれるはずである。

高齢者に、「生きるために必要だと思う力」と「子どもが小さいときから育てておきたいこと」について尋ねることによって、本当に必要な生きる力とは何かを見出す手がかりを得たい。

方 法

調査の対象

65歳以上の高齢者 男82名 女174名
合計256名（最高齢者89歳）

調査内容

「人と協力できる」、「思いやりの気持」など人間関係に関する項目、「数学が得意である」、「外国語ができる」など学力に関する項目、「運動が得意である」、「楽器の演奏が好きである」など技能に関する項目、「がまん強い」、「苦しさに負けない強さがある」など心の強さに関する項目、「美しいものや心を動かす出来事に感動する」、「自然とかかわるのが好きである」など情操に関する項目、「欲張らない」、「小さなことを気にかけない」など生き方に関する項目、「歯磨きなどの生活習慣が身についている」など生活習慣に関する項目等合計49項目。

項目ごとに、「とても必要だと思うもの」に◎、「ある程度必要だと思うもの」に○、「不要だと思うもの」に×を記入する。

調査の時期

平成25年8月～12月

調査方法

大学生の祖父母に依頼もしくは高齢者入所施設の入居者に依頼し調査用紙に記入を求めた。施設では、入居者の事情に応じて、施設職員が項目を読み上げ、口頭で回答している。

結果と考察

表1は、◎を2点、○を1点、×を-2点、無記入0点とし、各項目の合計点を人数で割ったものを項目得点として、得点の高い順に並べたものである。

すべての項目の中で、「感謝の気持ちを持つ」、「責任感がある」は男女ともにポイントが高く、◎の割合もこの項目だけが40%を超えている。上位項目は、以下「人と協力できる」、「思いやりの気持ちがある」、「ルールを守る」で、いずれも人とかかわったり人とともに仕事を進めたりする上で必要な項目であり、人間関係にかかわる能力や態度が重要視されていることがわかる。「お年寄りをうやまう」、「親をうやまう」を加えると、上位10位のうち7項目が人間関係に関する項目である。これ以外には、「自分のことは自分でする」という自主性・自立性に関する項目、「根気がある」、「生活習慣が身についている」が上位を占めている。「がまん強さ」や「苦しさに負けない強さ」も比較的上位にある。

一方で、数学、理科、社会、外国語などの教科や、話が上手、文章を書くのが得意、漢字をたくさん知っているなどの言語能力、楽器の演奏、歌を歌う、絵を描く、運動などの技術に関するものは総じて順位が低い。

男女別に比較すると、「人と協力できる」、「ルールを守る」、「マナーが身についている」、「文章を書くのが得意」などの項目で男性の肯定率が高いが、「根気がある」、「生活習慣が身についている」、「食べ物の好き嫌いがない」、「自分の健康に気を使う」、「運動がすき」、「欲張らない」、「気がきく」、「漢字をたくさん知っている」など多くの項目で女性の肯定率が高く、女性は生きる力として男性よりも多くの事柄を身につけておく必要があると考えていることがわかる。

「子どもが小さいときから育てておきたいこと」についてみてみよう（表2）。

「生きるために必要だと思う力」と順位に大きな変動はなく、全体として同じような傾向が見られる。したがって、生きるために必要な力のいず

表1 高齢者が考える「生きるために必要な力」

	男			女			男女 合計		
	◎ %	× %	得点	◎ %	× %	得点	◎ %	× %	得点
感謝の気持ちを持つ	43.9	0	1.42	48.2	1.2	1.42	46.8	0.8	1.42
責任感がある	45.1	1.2	1.33	42.9	1.8	1.20	43.6	1.6	1.25
人と協力できる	28.0	1.2	1.28	32.7	3.0	1.21	31.2	2.4	1.22
思いやりの気持ちがある	30.5	0	1.23	28.6	3.0	1.20	29.2	2.0	1.22
ルールを守る	25.6	1.2	1.31	32.1	4.2	1.16	30.0	3.2	1.20
自分のことは自分でする	30.5	3.7	1.09	26.4	2.4	1.18	27.7	2.8	1.18
お年寄りをうやまう	15.8	4.9	1.13	26.8	3.0	1.14	22.6	3.0	1.14
物を大切にする	23.2	2.4	1.13	28.6	3.6	1.15	26.8	3.2	1.14
歯磨きなどの生活習慣が身についている	18.3	3.7	1.02	29.8	4.2	1.17	26.0	4.2	1.13
自分の健康に気をつかう	23.2	1.2	1.14	28.6	7.1	1.09	26.8	5.2	1.11
根気がある	19.5	3.7	1.03	19.6	4.8	1.13	19.6	4.8	1.10
親をうやまう	23.2	2.4	1.12	23.2	4.2	1.10	23.2	2.4	1.10
親や先生、年長者の言うことを聞く	15.8	2.4	1.12	22.6	3.6	1.10	20.4	3.2	1.10
人の気持ちができる	24.4	2.4	1.14	23.8	4.8	1.09	24.0	4.0	1.10
始めたことは最後までやり遂げようとする	25.6	9.8	0.96	32.1	4.8	1.16	30.0	6.4	1.08
食べ物の好き嫌いが無い	24.4	4.9	1.10	26.8	6.0	1.04	26.0	5.6	1.06
マナーが身についている	19.5	1.2	1.19	16.1	5.4	0.99	17.2	4.0	1.04
人とつきあうのが好きである	20.7	2.4	1.08	19.6	4.8	1.01	20.0	4.0	1.03
環境を大切にす	13.4	4.9	1.03	18.5	4.8	1.04	16.8	4.8	1.03
思ったことははっきりいう	17.1	3.7	1.03	18.5	5.4	0.99	18.0	4.8	1.02
苦しさには負けない強さがある	24.4	3.7	1.05	19.0	7.7	0.96	20.8	6.4	1.02
がまん強い	20.7	3.7	1.00	20.2	7.7	0.97	20.4	6.4	1.01
美しいものや心を動かす出来事に感動する	15.8	4.9	0.94	16.1	4.8	1.0	16.0	4.8	0.99
考えたり工夫する力がある	17.1	7.3	0.94	11.9	7.1	0.9	13.6	7.2	0.91
いろいろなものに好奇心がある	9.8	6.5	0.90	13.7	7.7	0.9	10.8	7.2	0.90
欲張らない	17.1	6.1	0.91	13.1	6.5	0.88	12.4	6.4	0.89
運動が好きである	9.8	7.3	0.95	13.7	7.7	0.83	12.4	7.6	0.87
本を読むのが好きである	13.4	7.8	0.91	13.1	8.9	0.86	13.2	8.4	0.87
国を愛する気持ちがある	11.0	4.9	0.90	13.1	6.0	0.85	12.4	5.6	0.87
気がきく	18.3	6.1	0.96	13.7	15.5	0.71	15.2	12.4	0.81
自然とかかわるのが好きである	9.8	11.7	0.77	13.7	10.1	0.83	12.4	10.4	0.81
生きものが好きである	8.5	10.4	0.74	11.9	7.7	0.82	10.8	8.4	0.79
小さなことを気にかけない	11.7	9.8	0.78	11.9	11.3	0.75	10.8	10.8	0.76
絵を見るのが好きである	6.1	7.3	0.87	3.6	13.1	0.6	5.2	11.2	0.71
作ることが好きである	4.9	12.2	0.69	5.4	10.7	0.68	5.2	11.2	0.68
運動が得意である	12.2	12.2	0.78	22.6	21.4	0.60	19.2	18.4	0.66
歌や音楽を聴くのが好きである	7.3	9.8	0.71	6.5	14.9	0.62	6.8	13.2	0.65
花や植物が好きである	6.1	16.9	0.50	9.5	13.1	0.62	8.4	14.0	0.58
歌うのが好きである	3.7	13.4	0.60	9.5	15.5	0.58	7.6	14.8	0.58
漢字をたくさん知っている	3.7	18.3	0.64	8.9	16.1	0.55	7.2	19.6	0.58
文章を書くのが得意である	12.2	16.9	0.58	6.5	16.1	0.55	8.4	16.0	0.56
話が上手である	12.2	18.3	0.48	7.1	17.9	0.57	8.8	18.0	0.51
外国に興味を持つ	6.1	15.8	0.58	6.5	20.8	0.36	6.4	19.2	0.43
外国語ができる	7.8	22.1	0.38	5.4	25.6	0.27	8.9	24.3	0.34
絵を描くのが好きである	3.7	20.7	0.40	4.8	23.2	0.29	4.4	22.4	0.32
映画を見るのが好きである	2.4	20.8	0.42	6.5	26.2	0.29	5.2	24.3	0.32
社会が得意である	7.3	19.5	0.40	1.2	26.2	0.24	3.2	24.0	0.31
楽器の演奏が好きである	2.4	22.0	0.29	4.2	26.8	0.24	3.6	25.2	0.25
理科が得意である	6.1	23.2	0.29	2.4	29.2	0.22	5.6	27.2	0.23
数学が得意である	3.7	23.2	0.32	6.5	29.0	0.22	7.3	27.5	0.22

表2 子どもが小さいころから育てておきたいこと（男女合計，ポイント%順）

	◎数	◎%	○数	○%	×数	×%	合計
感謝の気持ちを持つ	90	36.4	152	61.3	2	0.8	1.33
責任感がある	71	28.7	169	67.7	4	1.6	1.23
人と協力できる	66	26.7	172	69.4	6	2.4	1.18
思いやりの気持ちがある	61	24.7	179	72.2	5	2.0	1.18
自分のことは自分でする	61	24.7	176	71.0	7	2.8	1.15
お年寄りをうやまう	63	25.5	171	69.0	8	3.2	1.14
根気がある	61	24.7	171	69.0	11	4.4	1.14
歯磨きなどの生活習慣が身についている	64	25.9	171	69.0	10	4.0	1.13
親をうやまう	61	24.7	174	70.2	9	3.6	1.13
ルールを守る	58	23.5	179	72.2	8	3.2	1.13
物を大切にする	58	23.5	178	71.8	8	3.2	1.13
食べ物の好き嫌いが無い	71	28.7	159	64.1	14	5.7	1.12
親や先生、年長者の言うことを聞く	51	20.6	186	75.0	8	3.2	1.10
自分の健康に気をつける	63	25.5	167	67.3	13	5.3	1.08
始めたことは最後までやり遂げようとする	57	23.1	171	69.0	16	6.5	1.06
人の気持ちがわかる	47	19.0	187	75.4	10	4.0	1.06
人とつきあうのが好きである	45	18.2	188	75.8	10	4.0	1.04
がまん強い	58	23.5	170	68.5	16	6.5	1.03
思ったことははっきりいう	45	18.2	187	75.4	11	4.4	1.03
苦しさに負けない強さがある	59	23.9	168	67.7	16	6.5	1.02
環境を大切に作る	44	17.8	187	75.4	12	4.9	1.02
美しいものや心を動かす出来事に感動する	35	14.2	198	79.8	12	4.9	0.99
運動が好きである	53	21.5	172	69.4	19	7.7	0.97
本を読むのが好きである	31	12.6	190	76.6	21	8.5	0.97
欲張らない	43	17.4	184	74.2	16	6.5	0.96
考えたり、工夫する力がある	42	17.0	185	74.6	18	7.3	0.94
国を愛する気持ちがある	31	12.5	199	80.2	14	5.7	0.94
マナーが身についている	34	13.8	180	72.6	10	4.0	0.92
いろいろなものに好奇心がある	35	14.2	192	77.4	18	7.3	0.91
生きものが好きである	23	9.3	200	80.6	21	8.5	0.83
気がきく	49	19.8	163	65.7	31	12.6	0.81
小さなことを気にかけない	38	15.4	178	71.8	27	10.9	0.81
絵を見るのが好きである	17	6.9	197	79.4	28	11.3	0.71
自然とかかわるのが好きである	33	13.4	184	74.2	26	10.5	0.70
作ることが好きである	22	8.9	174	70.2	28	11.3	0.66
歌や音楽を聴くのが好きである	18	7.3	190	76.6	33	13.4	0.65
花や植物が好きである	17	6.9	191	77.0	35	14.2	0.63
歌うのが好きである	17	6.9	188	75.8	37	15.0	0.60
運動が得意である	39	15.8	158	63.7	46	18.6	0.57
文章を書くのが得意である	18	7.3	184	74.2	40	16.2	0.57
外国に興味を持つ	29	11.7	164	66.1	48	19.4	0.51
話が上手である	18	7.3	179	72.2	45	18.2	0.51
漢字をたくさん知っている	25	10.1	168	67.7	49	23.9	0.47
絵を描くのが好きである	18	7.3	168	67.7	56	22.7	0.37
外国語ができる	22	8.9	159	64.1	60	24.3	0.34
映画を見るのが好きである	16	6.5	166	66.9	60	24.3	0.32
社会が得意である	11	4.4	171	69.0	60	24.3	0.30
楽器の演奏が好きである	11	4.4	167	67.3	63	25.5	0.25
数学が得意である	18	7.3	154	62.1	68	27.5	0.22
理科が得意である	14	5.7	159	64.1	68	27.5	0.21

れもできるだけ子どもが小さいうちから育てておくことが望ましいと考えられているということになる。

これらの結果から、高齡者の思いとして、生きる力として最も大切なのは人間関係力や人とのかわり方であり、学力はそれほど重要視されていないことがわかる。とくに女性は学力の必要性を男性よりも低く見ている。今回の調査対象者が子ども時代をすごした時代を考えると、80歳代以上が昭和初期、75歳から80歳が昭和10年代、70～75歳が戦時中、65～75歳が戦後の混乱期と復興期である。この時代全体を通して高校、大学へと進学するのはごく少数であり、多くは小学校、戦後は中学校の義務教育を終えると就職している。とくに女性はその傾向が強い。ちなみに、戦前は高等教育機関（旧制高校、専門学校、大学）に進学するものは総じて10%以下でとくに女子は極端に低かったし、戦後になっても1950年では高校進学率の平均は42.5%で女子は4割以下であり、平均で8割を超えるのは1980年以降である（現在は約96%）。大学進学率は1960年までは平均で10%程度であり、1993年から4割を超えるようになる（現在は55%前後）。

このことから、「上級の学校に行かず、たいした学力がなくてもしっかり生きてきた。それより大事なものは人づき合いとしっかり仕事をする事だ」と考えるのかもしれない。

楽器の演奏、歌を歌う、絵を描く、運動なども必要性の評価が低い。これらの技術を生かして生きていく人はごく少数であり、多くの人にとっては自分の趣味として生かすものである。生きる力の中核となるものではない。また、いまの高齡者がすごした子どもの時代は、これらの活動に思う存分取り組むことができるのはごく一部の人に過ぎなかったという事情も反映されていると思われる。

現在の初等教育には高齡者の思いがどの程度反映されているのだろうか。

上位の項目「感謝の気持ちを持つ」、「責任感がある」、「人と協力できる」、「思いやりの気持ちがある」、「生活習慣を身につける」、「お年寄りをうやまう」、「親をうやまう」、「ルールを守る」、「自分のことは自分でする」、「がまん強さ」、「苦しさに負けない強さ」は、小学校学習指導要領ではそのほとんどが「道徳」第1学年および第2学年の内容として登場する。責任感という言葉は出てこないが、「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかり行う」という内容がそれに相当す

る。できればこれに加えて「自分でしたことの責任は自分が負う」という「自己責任感」が加わることが望ましい。

しかしながら、道徳は、小学校6年生では総授業時数980時間のなかの35時間（3.6%）、6年間全体では総授業時数5645時間のなかの210時間（3.7%）、主要教科、たとえば国語25.3%、算数17.9%などに比べるとその比率はきわめて低い。もちろん、道徳の中で培われる資質は、学級会活動やクラブ活動、日常生活全体の中でも涵養されるものであるから、授業時間数の比較だけで決められるものではない。日本の教育史の中で、現在の高齡者が大事だと考えている項目のすべてが内容に盛り込まれていたのは「修身」である。修身には、家庭のしつけ、親孝行、家族・家庭、勤労・努力、勉学・研究、創意・工夫、公益・奉仕、博愛・慈善、資質・儉約、責任・職分、友情、信義・誠実、師弟・反省、正直・至誠、克己・節制、謝恩、健康・養生、愛国心、人物・人格、公衆道徳、国旗と国家、国際協調などが内容に盛り込まれている。

現行の幼稚園教育要領ではどうだろうか。

高齡者が求める上位項目の中で幼稚園教育要領のねらいあるいは内容として示されているのは「人と協力できる」、「思いやりの気持ちがある」、「生活習慣を身につける」、「ルールを守る」、「自分のことは自分でする」であり、「感謝の気持ちを持つ」、「責任感がある」、「お年寄りをうやまう」、「親をうやまう」、「がまん強さ」、「苦しさに負けない強さ」に関する内容は一切ない。幼稚園教員が参加する研修は身体表現、手遊び、歌、絵本の読み聞かせ、絵画、造形など実技的な内容が多く、高齡者が求める上位項目に関する研修や学びの機会は多くない。

「感謝の気持ちを持つ」、「責任感がある」などは幼児期に育てるのはまだ早い、あるいは幼児期に育てる必要はなく小学校以降でよいということなのだろうか。これらを含めた心情的な資質の基礎は幼児期に作られること、いじめや不登校、小1プロブレムなどが大きな教育問題になっていること、少子高齢化社会の中で高齡者を支えるための負担が今後一層大きくなることを考えると、幼稚園教育要領にも明記し、小学校の教育でも重点的な教育内容であることを意識し、これらを育てることのできるよう教員の資質を高めて、「幸せに生きる」ための教育の充実を図る必要がある。

子どものころに多く経験しておきたい活動についても尋ねてみた。

表3 子どものころに多く経験しておきたい活動

	男%	女%	合計%
運動遊び	71.8	61.5	64.8
ままごと	55.1	45.0	48.2
鬼ごっこ	51.3	54.4	53.4
折り紙	60.2	54.4	56.3
絵本読み	62.8	55.6	57.9
砂場遊び	47.4	50.9	49.8
絵を描く	56.4	55.0	55.5
物を作る	64.1	52.7	56.3
虫取り	55.1	49.7	51.4
生き物の飼育	64.1	53.8	57.1
植物・野菜の栽培	57.7	47.3	50.6
歌を歌う	56.4	53.8	54.7
楽器をひく	47.4	47.3	47.4
音楽を聴く	50.0	53.8	52.6
劇遊び	44.9	46.2	45.7
文字遊び	53.8	49.1	50.6
数遊び	55.1	50.9	52.2
英語遊び	47.4	44.4	45.3
踊り・ダンス	42.3	36.7	38.5

男女ともに最も高いのは運動遊びであり、それ以外に男性は「物を作る」、「生き物の飼育」、「絵本読み」、「絵を描く」、「鬼ごっこ」、「折り紙」などの比率が高い。

全体的に項目間の比率は余り大きな違いはなく、勉強的な活動の割合もそれほど低くない。小さいころに育ってほしいこととそのために必要な経験や活動の間の関係性が乏しい。高齢化と母親の社会進出がいつそう加速すると予想される中で、高齢者が子どもにかかわる機会や時間もいつそう増加することが考えられる。高齢者も、子どもについての学びの機会を持ち、豊かな経験に基づいた積極的な育児や子どもへのかかわりが期待される。

引用文献

幼稚園教育要領 2010 文部科学省
 保育所保育指針 2010 厚生労働省
 小学校学習指導要領 2011 文部科学省
 修身第二期国定教科書 1910